

## 47 JICAの現場から

アフリカ大陸最高峰キリマンジャロ山の麓に広がる親日国タンザニア。その経済や商業の中心であるダルエスサラームの成長を支えてきたのが、1980年代以降の長きにわたる日本の無償資金協力による道路網の整備だ。だが、2000年代に入り、毎年のように約7%の経済成長を続けてきた結果、そのダルエスサラームの都市交通が機能不全に陥る危機に直面している。

◇

経済成長とともに信頼性の高い日本車の中古車輸入が伸びているが、その大量の日本車がダルエスサラームの道にあふれかえる。ラッシュアワーともなると、市内中心部から住宅街までの7-8kmの距離を移動するのに1時間以上かかることも珍しくない。雨期には道路が頻繁に冠水し、交通渋滞は更に深刻となる。

今後も堅調な人口増加が予想される中、2030年前後にはダルエスサラームは人口1000万人を超えるメガシティになることが確実視されている。このため、更に渋滞

が深刻化することが予想されるダルエスサラームの交通改善に向けて、JICAは、40年を目標年とする都市交通マスタープランづくりを進めている。私たちコンサルタントが総合都市交通体系調査を実施し、幹線道路や公共交通ネットワークといった都市における交通体系のあり方を示す都市交通マスタープランを策定する。

具体的には、四つのカテゴリー（都市構造計画、道路計画、公共交通計画、交通管理計画）の下、約80のプロジェクトを提案している。これらのプロジェクトの中には、質の高いインフラとして、日本企業に開発実績・維持管理経験のある都市鉄道や海底トンネルなどハードインフラと、ICTを活用した最先端の交通管制システムなどソフトインフラ開発も含まれる。

タンザニアからは、運輸交通分野の中で日本が官民で培ってきた経験・事案の活用も期待されている。

例えば、タンザニア政府関係者

## 日本企業のサービスマッチング

### タンザニア

なか せ こ あつゆき  
中世古 篤之 氏



日本の中古車で渋滞するダルエスサラーム

を日本へ招待した際、首都高大橋JCTの整備のために、JCTの整備予定地脇に高層マンションを整備し住民を移転させた事例を紹介したところ、円滑な住民移転の一工夫として高い関心を集めた。このほか、日本の私鉄各社による路線整備と沿線不動産の一体的開発などに対して、タンザニアが参考にしたいとの声が挙がった。

このように、日本企業の優れたサービス・アイデアが、タンザニアの開発ニーズにマッチし、ビジネスに発展する可能性が高いと日々現場で実感している。私たちコ

ンサルタントとしても、日本・タンザニア双方にとりウィン・ウィンとなる都市交通計画を、現地のニーズや潜在性を基に、日本政府や日本企業と協働し実現していきたい。（隔週掲載）

【略歴】35年間民間コンサルタントとして、国内外の都市計画や交通計画のプロジェクトに携わる。タンザニアやケニアなどの業務を経験。現在、エイト日本技術開発国際事業本部所属。59歳。